

様式1

整理番号 1

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：復旧治山
施工箇所：野鹿谷川

都道府県名：福井

(単位:千円)

大 区 分	中 区 分		評 価 額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	0	
		a-2	7,287	
	流域貯水便益	b-1	0	
		b-2	1,662	
	水質浄化便益	c-1	0	
		c-2	2,222	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	0	0 + 31,580 + 0 + 0 = 31,580 > 2,400 → 適用する
		d-2	31,580	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	0	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	2,400	適用しない
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			42,751	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			18,269	千円
費用対効果分析		$B \div C = \frac{42,751}{18,269} = 2.34$		

様式1

整理番号 2

便 益 集 計 表 (治 山 事 業)

事業名：復旧治山

都道府県名：三重

施工箇所：古和谷

(単位:千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	0	
		a-2	23,308	
	流域貯水便益	b-1	0	
		b-2	4,351	
	水質浄化便益	c-1	0	
		c-2	5,819	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	0	$0 + 103,500 + 0 + 0 = 103,500 > 22,876$ → 適用する
		d-2	103,500	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	0	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	22,876	適用しない
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			136,978	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			30,769	千円
費用対効果分析		$B \div C = \frac{136,978}{30,769} = 4.45$		

様式1

整理番号 3

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：復旧治山
施工箇所：長瀬谷

都道府県名：三重

(単位:千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	3,230	
		a-2	26,907	
	流域貯水便益	b-1	647	
		b-2	5,391	
	水質浄化便益	c-1	865	
		c-2	7,209	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	25,599	25,599 + 213,253 + 0 + 0 = 238,852 > 23,790 → 適用する
		d-2	213,253	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	0	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
	災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	23,790
なだれ災害防止便益		q-2	0	
潮害軽減便益		q-3	0	
海岸侵食防止便益		q-4	0	
便 益 合 計 (B)			283,101	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			185,098	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{283,101}{185,098} = 1.53$			

様式1

整理番号 4

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：山地災害対策総合減災対策
施工箇所：貴船川

都道府県名：京都

(単位:千円)

大 区 分	中 区 分		評 価 額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	6,413	
		a-2	44,096	
	流域貯水便益	b-1	1,040	
		b-2	7,150	
	水質浄化便益	c-1	1,391	
		c-2	9,562	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	94,215	94,215 + 647,797 + 19 + 293 = 742,324 > 77,143 → 適用する
		d-2	647,797	
	土砂崩壊防止便益	e-1	19	
		e-2	293	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	77,143	適用しない
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			811,976	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			224,351	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{811,976}{224,351} = 3.62$			

様式1

整理番号 5

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：復旧治山
施工箇所：蓮花岩山

都道府県名：兵庫

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	297	
		a-2	13,113	
	流域貯水便益	b-1	51	
		b-2	2,250	
	水質浄化便益	c-1	68	
		c-2	3,008	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	1,285	1,285 + 56,829 + 0 + 36 = 58,150 > 3,151 → 適用する
		d-2	56,829	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	36	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
	災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	3,151
なだれ災害防止便益		q-2	0	
潮害軽減便益		q-3	0	
海岸侵食防止便益		q-4	0	
便 益 合 計 (B)			76,937	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			63,240	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{76,937}{63,240} = 1.22$			

様式1

整理番号 6

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：奥地保安林保全緊急対策
施工箇所：天川

都道府県名：兵庫

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	0	
		a-2	11,984	
	流域貯水便益	b-1	0	
		b-2	1,166	
	水質浄化便益	c-1	0	
		c-2	1,559	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	0	0 + 35,616 + 0 + 0 = 35,616 < 54,093 → 適用しない
		d-2	35,616	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	0	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	54,093	適用
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			68,802	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			41,346	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{68,802}{41,346} = 1.66$			

様式1

整理番号 7

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：地域総合防火対策
施工箇所：別所

都道府県名：兵庫

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	131,236	
		a-2	0	
	流域貯水便益	b-1	52,491	
		b-2	0	
	水質浄化便益	c-1	70,199	
		c-2	0	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	178,425	178,425 + 0 + 0 + 0 = 178,425 > 0 → 適用する
		d-2	0	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	0	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	0	適用しない
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			432,351	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			34,893	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{432,351}{34,893} = 12.39$			

様式1

整理番号 8

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：復旧治山
施工箇所：ナベワリ谷

都道府県名：奈良

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	0	
		a-2	9,184	
	流域貯水便益	b-1	0	
		b-2	2,236	
	水質浄化便益	c-1	0	
		c-2	2,991	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	0	0 + 43,423 + 0 + 79 = 43,502 > 35,193 → 適用する
		d-2	43,423	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	79	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	35,193	適用しない
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			57,913	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			31,731	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{57,913}{31,731} = 1.83$			

様式1

整理番号 9

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：復旧治山
施工箇所：御殿川本流

都道府県名：和歌山

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	332	
		a-2	739	
	流域貯水便益	b-1	59	
		b-2	131	
	水質浄化便益	c-1	79	
		c-2	175	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	1,460	1,460 + 3,246 + 3 + 14 = 4,723 < 15,933 → 適用しない
		d-2	3,246	
	土砂崩壊防止便益	e-1	3	
		e-2	14	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	15,933	適用
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			17,448	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			9,615	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{17,448}{9,615} = 1.81$			

様式1

整理番号 10

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：復旧治山
施工箇所：大杉大小屋

都道府県名：和歌山

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	1,781	
		a-2	33,216	
	流域貯水便益	b-1	401	
		b-2	7,472	
	水質浄化便益	c-1	536	
		c-2	9,992	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	6,461	6,461 + 120,521 + 5 + 209 = 127,196 > 95,722 → 適用する
		d-2	120,521	
	土砂崩壊防止便益	e-1	5	
		e-2	209	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	95,722	適用しない
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			180,594	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			96,751	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{180,594}{96,751} = 1.87$			

様式1

整理番号 11

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：復旧治山
施工箇所：北又谷

都道府県名：和歌山

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評 価 額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	1,029	
		a-2	3,859	
	流域貯水便益	b-1	224	
		b-2	840	
	水質浄化便益	c-1	300	
		c-2	1,123	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	3,650	3,650 + 13,685 + 3 + 24 = 17,362 < 106,220 → 適用しない
		d-2	13,685	
	土砂崩壊防止便益	e-1	3	
		e-2	24	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	106,220	適用
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			113,595	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			33,654	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{113,595}{33,654} = 3.38$			

様式1

整理番号 12

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：復旧治山
施工箇所：石ノ谷

都道府県名：和歌山

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	0	
		a-2	3,331	
	流域貯水便益	b-1	0	
		b-2	986	
	水質浄化便益	c-1	0	
		c-2	1,318	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	0	0 + 13,158 + 0 + 0 = 13,158 < 58,421 → 適用しない
		d-2	13,158	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	0	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	58,421	適用
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			64,056	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			15,385	千円
費用対効果分析	$B \div C =$		$\frac{64,056}{15,385} =$	4.16

様式1

整理番号 13

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：予防治山
施工箇所：権現山103

都道府県名：和歌山

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	64	
		a-2	1,011	
	流域貯水便益	b-1	5	
		b-2	86	
	水質浄化便益	c-1	7	
		c-2	115	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	182	182 + 2,895 + 0 + 0 = 3,077 < 27,273 → 適用しない
		d-2	2,895	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	0	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	27,273	適用
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			28,561	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			9,615	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{28,561}{9,615} = 2.97$			

様式1

整理番号 14

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：復旧治山
施工箇所：不動山

都道府県名：鳥取

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評 価 額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	0	
		a-2	2,446	
	流域貯水便益	b-1	0	
		b-2	656	
	水質浄化便益	c-1	0	
		c-2	877	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	0	0 + 12,720 + 0 + 0 = 12,720 < 31,994 → 適用しない
		d-2	12,720	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	0	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	31,994	適用
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			35,973	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			16,346	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{35,973}{16,346} = 2.20$			

様式1

整理番号 15

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：水源の里保全緊急整備
施工箇所：神戸布瀬山

都道府県名：鳥取

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	96,150	
		a-2	2,121	
	流域貯水便益	b-1	38,151	
		b-2	841	
	水質浄化便益	c-1	51,022	
		c-2	1,125	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	1,013,607	$1,013,607 + 22,357 + 1,364 + 98$ $= 1,037,426 > 80,109$ → 適用する
		d-2	22,357	
	土砂崩壊防止便益	e-1	1,364	
		e-2	98	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
	災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	80,109
なだれ災害防止便益		q-2	0	
潮害軽減便益		q-3	0	
海岸侵食防止便益		q-4	0	
便 益 合 計 (B)			1,226,836	
事業費 (C) (様式2にて算出)			76,183	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{1,226,836}{76,183} = 16.10$			

様式1

整理番号 16

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：復旧治山
施工箇所：今山川

都道府県名：島根

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	0	
		a-2	2,773	
	流域貯水便益	b-1	0	
		b-2	602	
	水質浄化便益	c-1	0	
		c-2	805	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	0	0 + 14,188 + 0 + 1 = 14,189 < 84,937 → 適用しない
		d-2	14,188	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	1	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	84,937	適用
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			89,117	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			67,375	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{89,117}{67,375} = 1.32$			

様式1

整理番号 17

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：復旧治山
施工箇所：金井川

都道府県名：岡山

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	636	
		a-2	1,080	
	流域貯水便益	b-1	101	
		b-2	171	
	水質浄化便益	c-1	135	
		c-2	229	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	6,225	6,225 + 10,561 + 0 + 1 = 16,787 < 17,597 → 適用しない
		d-2	10,561	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	1	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	17,597	適用
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			19,949	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			7,981	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{19,949}{7,981} = 2.50$			

様式1

整理番号 18

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：水源の里保全緊急整備
施工箇所：良足谷

都道府県名：岡山

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	184,039	
		a-2	2,016	
	流域貯水便益	b-1	50,186	
		b-2	550	
	水質浄化便益	c-1	67,117	
		c-2	735	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	1,560,541	$1,560,541 + 17,094 + 130 + 5$ $= 1,577,770 > 19,158$ → 適用する
		d-2	17,094	
	土砂崩壊防止便益	e-1	130	
		e-2	5	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
	災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	19,158
なだれ災害防止便益		q-2	0	
潮害軽減便益		q-3	0	
海岸侵食防止便益		q-4	0	
便 益 合 計 (B)			1,882,413	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			98,717	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{1,882,413}{98,717} = 19.07$			

様式1

整理番号 19

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：復旧治山
施工箇所：猪谷

都道府県名：岡山

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	0	
		a-2	2,660	
	流域貯水便益	b-1	0	
		b-2	207	
	水質浄化便益	c-1	0	
		c-2	277	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	0	0 + 7,615 + 0 + 0 = 7,615 < 20,117 → 適用しない
		d-2	7,615	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	0	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	20,117	適用
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			23,261	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			17,308	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{23,261}{17,308} = 1.34$			

様式1

整理番号 20

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：復旧治山
施工箇所：組ヶ原上流

都道府県名：広島

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	0	
		a-2	1,479	
	流域貯水便益	b-1	0	
		b-2	271	
	水質浄化便益	c-1	0	
		c-2	362	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	0	0 + 6,993 + 0 + 0 = 6,993 < 51,803 → 適用しない
		d-2	6,993	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	0	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	51,803	適用
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			53,915	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			25,407	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{53,915}{25,407} = 2.12$			

様式1

整理番号 21

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：予防治山
施工箇所：押込上流

都道府県名：広島

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評価額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	88	
		a-2	1,898	
	流域貯水便益	b-1	12	
		b-2	250	
	水質浄化便益	c-1	15	
		c-2	335	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	365	$365 + 7,895 + 0 + 1 = 8,261 > 0$ → 適用する
		d-2	7,895	
	土砂崩壊防止便益	e-1	0	
		e-2	1	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
	災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	0
なだれ災害防止便益		q-2	0	
潮害軽減便益		q-3	0	
海岸侵食防止便益		q-4	0	
便 益 合 計 (B)			10,859	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			4,808	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{10,859}{4,808} = 2.26$			

様式1

整理番号 22

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：予防治山
施工箇所：古屋

都道府県名：山口

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評 価 額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	5,483	
		a-2	6,325	
	流域貯水便益	b-1	911	
		b-2	1,051	
	水質浄化便益	c-1	1,218	
		c-2	1,405	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	22,811	22,811 + 26,317 + 3 + 7 = 49,138 < 87,984 → 適用しない
		d-2	26,317	
	土砂崩壊防止便益	e-1	3	
		e-2	7	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	87,984	適用
	なだれ災害防止便益	q-2	0	
	潮害軽減便益	q-3	0	
	海岸侵食防止便益	q-4	0	
便 益 合 計 (B)			104,377	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			24,038	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{104,377}{24,038} = 4.34$			

様式1

整理番号 23

便 益 集 計 表
(治 山 事 業)

事業名：山地災害対策総合減災対策
施工箇所：城山

都道府県名：山口

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分		評 価 額 B	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	30,208	
		a-2	35,792	
	流域貯水便益	b-1	5,270	
		b-2	6,244	
	水質浄化便益	c-1	7,048	
		c-2	8,351	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	181,270	$181,270 + 214,781 + 23 + 58$ $= 396,132 > 0$ → 適用する
		d-2	214,781	
	土砂崩壊防止便益	e-1	23	
		e-2	58	
環境保全便益	炭素固定便益	f-1	0	
		f-2	0	
	気候緩和便益	g	0	
	騒音軽減便益	h	0	
	飛砂軽減便益	i	0	
	風害軽減便益	j	0	
	大気浄化便益	k		
	霧害軽減便益	l	0	
	火災防備便益	m	0	
	漁場保全便益	n		
	生物多様性の保全便益	o		
	保健休養便益	p	0	
	災害防止便益	山地災害防止便益	q-1	0
なだれ災害防止便益		q-2	0	
潮害軽減便益		q-3	0	
海岸侵食防止便益		q-4	0	
便 益 合 計 (B)			489,045	
事 業 費 (C) (様式2にて算出)			239,102	千円
費用対効果分析	$B \div C =$		$\frac{489,045}{239,102}$	$= 2.05$